多自然川づくり取り組み事例

タイトル：	天塩川下流域樹木管理方法の紹介について		
水系／河川名：	天塩川水系/天塩川	河川分類：	大河川
河川の流域面	5590	整備計画流量： 4000m3/s	セグメント： 2-2
事業：	維持管理	事業開始年度	令和元年度
目標設定：	なし	段階：	C（ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ・評価時）
課題・目的（主な）：	流下能力の確保、自然河岸、河畔林の保全・再生・創出		
工法（主な）：	樹木伐採、除根		
配慮事項（主な）：	その他		

背景・課題、目標設定

＜背景＞

河道内の樹木は、生物の生息・生育環境や河川景観を形成するなど、多様な機能を有している一方で、洪水時には水位の上昇の要因となる。従って河道の流下能力維持のためには、河道内樹木の繁茂状況を随時把握し、河川生態系と両立を図りながら、洪水の安全な流下に支障とならないよう適切に管理する必要がある。

＜課題＞

幌延河川事務所では、河川整備計画や河川維持管理計画等に基づき、堤防整備、河道掘削に加えて、河道の流下能力（治水安全度）の確保・維持、適切な河川監視及び管理のため、河道内樹木伐採を適宜実施している。一部では伐株からの再萌芽が見られており、2回伐採等試行している対策手法の早期確立と一般化が急務である。また、天塩川下流域では、国の特別天然記念物のオジロワシ等が繁殖しているため、鳥類等に配慮した樹木管理を行う必要がある。

↑地域イベントに活用されている天塩川
（イベント名：ダウン・ザ・テッシ・オペー）

取り組み内容・対策例（1/2）

これまで天塩川下流域で行った取り組みの紹介

（1）2回伐採試験

2回伐採試験とは時期と高さを変えて2回に分けて伐採を行うもので、1回目は高さ1m程度、2回目は0.1m程度を目安に行う。時期については12月～2月と7月～9月に行う方法、6～7月と9月に行う方法がある。地上に残した部分に栄養が豊富にある内に伐採することで、より効率的な抑制を目的とした試験である。

〇試験箇所：天塩川2地点、問寒別川8地点
〇施工・モニタリング時期：R1～R2施工・R2～R3モニタリング

（2）木酢液試験

木酢液とは木炭の製造過程の副産物として生成される液体で、農薬には該当せず漁業に配慮した除草などが可能となっている。

〇調査箇所：（一次試験）天塩川2地点、問寒別川8点
（二次試験）天塩川、問寒別川

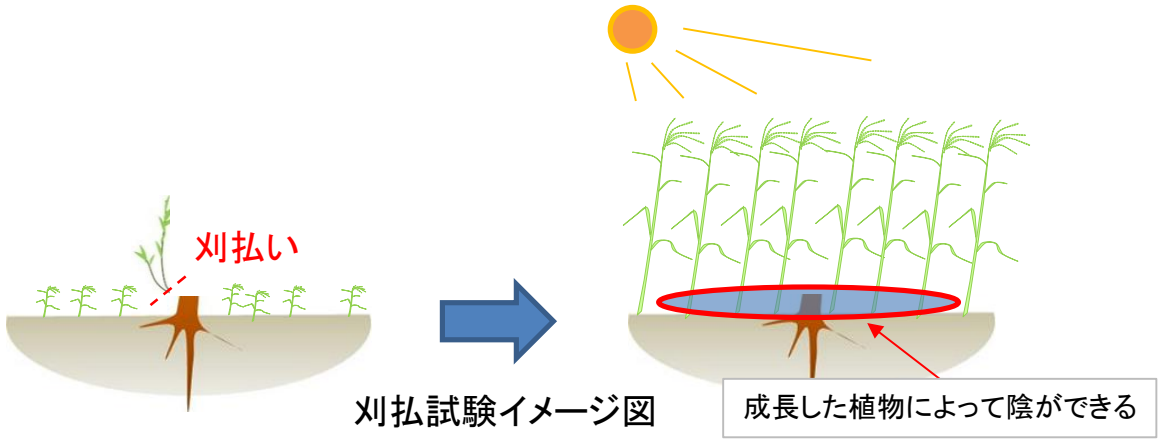
(4)間引き伐採

間引き伐採は、樹林化した河畔林を間伐し、流下能力確保、自然環境の保全や樹林化の抑制を図る方法である。

取り組み内容・対策例（2/2）

(5)選択狩り試験

選択刈りとは、雑草の繁茂期前に再萌芽したヤナギ類のみを伐採し、その後繁茂した雑草が日光を遮ることで再萌芽を抑制することを目的としている。



刈払試験イメージ図

ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ結果、ｱﾋﾟｰﾙﾎﾟｲﾝﾄ、今後の対応方針

＜モニタリング結果＞

今年度データのとりまとめまで終了している「2回伐採」と「木酢液塗布」、「間引き伐採」、「刈払」について報告する。

「2回伐採」と「木酢液塗布」については、抑制対策を施した箇所とそうでない箇所に大きな差がなく明確な効果が見られなかった。

「間引き伐採」については、間引き後陰になった箇所については伐株生存率はやや低い結果であり、かつ成長が抑制されてることが確認できた。

「刈払」については、草本が生えていない時期に再萌芽したものを刈り払う予定であったが、草本の成長が予定よりも早かったため、選択刈りを行い擬似的に草本を害さずに刈り払いを行えた場合を再現した。この場合では、生存率が低く草本による遮光性の効果が示された。

＜アピールポイント＞

夏の初めから中頃の時期は、植物の成長期にあたり栄養の多くが茎や葉にあるため、この時期に伐採と刈り取りを行うことにより効果的に植物を衰退させることができる。しかし、天塩川流域には希少猛禽類が多く確認されており、樹林化対策を効果的に行える時期と重なる形で繁殖期があるため、巣周辺に近づかない等の配慮を必要とする。このため一部の区間において適切な時期に樹林化対策を行うことができない。これを念頭に対策を模索していく必要がある。

チュウヒ

オジロワシ

＜今後の対応方針＞

天塩川下流域は、管理しなければならない高水敷が広いため、全域を短い期間で伐採・伐根を繰り返すことは困難である。また希少猛禽類も確認されていることから、大がかりな対策を行う時期も限られている。これら2点を踏まえ

備考

問い合わせ先	
電話番号	